

【第 25 回歴史的風土部会及び第 1 回明日香村小委員会合同会議】 主な意見

歴史文化資源

- 本物の持つ力が飛鳥の魅力の一つ。遺跡本体の整備を行ってほしい。
- 例えば飛鳥京跡とか都城の遺跡や寺院の遺跡に関しては研究が進んでおり、そうした研究成果をきちんと反映する方向で遺跡の整備等を考えてほしい。

交通

- 農業をやっていただくためにも人の足を確保するのは非常に大事
- 世界遺産登録で交通が持つのか、交通需要予測等をきちんと行う必要があるのでは

観光

- ストーリー性を持って、飛鳥の中に点在している史跡を巡るコースをいくつも設定してほしい。
- 観光戦略について、どういったお客様にどういった時間を過ごしてもらうか、を皆さんで合意をとると良いのでは。※⇒まると博物館で対応している
- 拠点となる宿泊施設が交通とともにきちんと整備されていることが肝要と思う
- 京都のように多くの人がきていただく観光は目指さない前提
- 包括的な文化プログラムとか教育プログラム等のソフトの部分の充実をはかるべき

景観

- 現在の飛鳥の景観というのは昭和初期・中期の景観であり、古代の本物のすごさが分かる景観
- 本当の景観、飛鳥時代のようなすが一部見えている景観を形成していくことも必要
- 「生きている景観」というのが明日香村の特徴、持続可能性の観点は大事
- 景観は保存ではなく保全、変わるということがアイデンティティ

農業

- 一番大きな課題は農業の担い手が不足してきていること
- 買い取り地が点在し、かつ耕作放棄地になっているのも問題
- 農地や林地がどうなっていくのか、担い手の関わり方にどのような可能性があるのかを検討する必要がある。
- 一元管理するべきだろう
- 戦後に森林から農地が変わったところは森林に戻し、本当に農村景観的、あるいは農業として良いところは農業で残すべきでは
- 農業をさせてもらえないかという人々もかなりいるが、参入の障壁は農業用の家が無い・農機具の置き場が無いことである。

生業・くらし

- 村内での就業率が低い、分析の必要があるのでは
- 仕事のあり方が大きく変わっている時代の変化も踏まえて生業をどう考えるのかというのも絡む話と思う